

2022年度 JASMIM 助成金 実施報告

若尾 裕

助成イベント名：

クリエイティブ・ミュージック・フェスティバル Creative Music Festival (CMF) 2022
『春の祭典』を（適当に）踊る

実施日：2022年8月26日～28日

開催場所：城崎国際アートセンター

助成金：1万円



この企画は前年の2021年に城崎国際芸術センターのレジデンス・プログラムに選ばれ、同年に行なう予定であったが、コロナ禍によって2度の延期を余儀なくされ、やっと2023年8月に実行できたものだ。このような事情ゆえに、毎年行っている参加者募集がうまくいくかどうか懸念されたが、十数名の参加の応募があり、スタッフを入れてなんとか20名となった。

城崎国際芸術センターはさまざまなパフォーミング・アーティストやそのグループが長期間滞在し、制作上演できるよう、劇場、練習用スペース、自炊設備を含んだ宿泊が整った施設である。近隣に城崎温泉があり、参加者はそれを楽しむことができる。

ここで三日（といっても1日目は午後に集合，3日目は午後早くに試演会をして解散というスケジュールだったので，実質1日半くらい）のスケジュールでダンスの制作を行なった。

1日目は自己紹介の後，そもそものストラヴィンスキーの『春の祭典』の音楽とダンスについての知識を共有し，現代のさまざまなダンスカンパニーによるアプローチを見てみた。もちろん，このような作品は概してアクロバティックに走ったものであり，われわれの目指すところは異なるものなので，あくまで参考としてである。われわれがやりたかったのは，集まったひとたち，それぞれのリソースみんなを共有しながら，誰でも参加できるダンスの可能性を開発してみることである。

尺八奏者の参加によって，最初の「大地の目覚め」はストラヴィンスキーとはまったく違ったものとなった。女子大生3人グループによるリトアニア民謡はこのダンス作品の核となった。能を得意とする参加者は見事に長老役を能の役のように演じた。ジャズピアノを弾く参加者はくたびれた農民の円舞の音楽を即興的に弾いた。

そして，ストラヴィンスキーの音楽とも既存のダンスカンパニーのダンスともまったく異なる，10分少しくらいのダンス作品ができあがった。時間があればもう少し長い作品にすることもできたであろう。

試演の結果は参加者にとってたいへん満足のいくものとなり，見に来ていただいた方々からの評判も上々であったと思われる。試演の動画のURLを記しておくので，見ていただけたらさいわいである。

<https://www.youtube.com/watch?v=EEMzKYkqm6c&t=30s>